

令和2年度 奈良県立二階堂高等学校学校 学校評価総括表

No.1

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科(総合学科)」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成する。				総合評価		
令和元年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標					
キャリアデザイン科として、全ての教育活動に人生100年時代の視点を取り入れて地域を重視したキャリア教育を進めてきた。令和元年度も、地域社会とつながる実学教育を推進してきたが、より効果的な取組とするため、2年生の地域課題解決型研究の持ち方と二階堂フェスタの内容については、一部を改善し、より生徒の自主性を育てる教育となることが求められる。進路保障については、就職・進学ともに「ミスマッチを防いだ進路選択」を目標に一定の成果を見せている。進路先が決定した生徒にも就職後、入学後を見据えた指導を行っており、今後の離職者、中途退学者の防止に成果を期待している。		(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進	①DCSプロジェクト※を通して、実社会とつながった「深い学びに向かう力」を育成する。(※DCSプロジェクト：実社会とつながった深い学びに向かう力の育成プロジェクト) ②Brush up Time (BUT)※を軸に基礎学力を充実させ、積極的な資格、検定の取得をすすめる。(※Brush up Time (BUT)：朝の時間を利用した振り返り学習) ③「産業社会と人間」、「社会人基礎力」※を通して、キャリアプランニング能力を育成する。(※社会人基礎力：総合的な探究の時間) ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性をもった生徒を育成する。					
		(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成	①時間とルールを守り、はじめある生活態度を育てる。 ②爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ③ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ④高等養護学校分教室との交流を通して、社会性、多様性を尊重する心を育む。					
		(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営	①学年、分掌、事務室が情報を共有し、チームとしての教育活動の推進を図る。 ②新学習指導要領の実施に向けた、新しい教育課程を創造する。 ③ICTを活用し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを推進する。 ④地域や保護者との連携・協働により、コミュニティスクールの取組を推進する。 ⑤教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。					
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)		改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTや普段の授業の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPA3.1以上。 ・資格・検定の積極的受験により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受験者数500名以上。		B	「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPAは3.0で、概ね達成できたが、BUTの実施方法等についてはより改善する必要がある。 各種検定受験者数は232人であった。		今後もICTを活用した授業を推進していき。BUTについては、新学習指導要領を見据えた科目全体の見直しが必要である。各種検定受験者数が減少している。生徒の意識向上の対策を講じたい。	コロナ禍、授業時間確保に苦心しつつ、放課後の補習やICT機器を使った授業展開を進めるなどの取組は評価できる。ICT機器の活用については、さらに進めて頂きたい。
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。 ・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.0以上。		B	ICT機器を活用した授業が増えている。また、「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPAは2.9で、概ね達成できた。			
生活指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守る素地をつくる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を続ける。 ・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。		C	積極的に挨拶をしてくる生徒が増えた。しかし、まだまだ粘り強く取り組む必要がある。指導件数は昨年度とほぼ同数で、特別指導のべ人数は5%増であり、4月・5月がコロナ禍で休校であったことを考えるとかなり増加したといえる。		規範意識の向上、挨拶の励行、基本的な生活習慣を身につけることなど、取り組むべき課題が多い。 集団生活において、個を意識しながら、全体のために行動できるようにする。 そのためには、地道に根気強く取り組む姿勢が必要。	基本的な生活習慣を身につけるために、先生方の努力は評価できる。具体的には、遅刻指導、挨拶運動の成果に表れている。引き続き、基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上に努めていただきたい。
	基本的な生活習慣の確立	・時間を大切に指導を徹底し、はじめある行動を心がける。さらに遅刻指導をより具体化し、遅刻数について昨年度比10%減を目標とする。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間での不統一のない指導を展開する。		B	遅刻数は2学期・3学期は昨年度よりも減となった。放課後の遅刻指導の成果があらわれていると判断する。服装・頭髪等の身だしなみについては、生徒の多様性を十分に意識した指導を展開する必要がある。時間を守れないルーズな行動が目立つところもあった。			
	生徒理解と家庭との連携	・中学校訪問や生活支援カードで得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 ・欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、卒業後の進路確立に役立つよう社会人基礎力を育成する。		B	中学校訪問によって入学前に様々な情報をあらかじめ得たことで、学年当初の生徒理解がすすみ、細部にわたって配慮することが可能となった。欠席・遅刻は多くみられたが、常に家庭連絡をとって状況把握した。			
情操指導	読書週間の定着	・BUTの読書時間に役立てるお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(図書館イベントやお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)		A	図書委員全員集まってイベントは出来なかったが、密を避けた方法でイベントを行ったり、リーフレットの作成など図書館の活用に向けた活動ができた。		図書委員・文化委員・環境美化委員・生徒会役員が、各自の活動内容を把握し、自主的に行えるようにする。	生徒の自主性・主体性を尊重した文化鑑賞会の運営は素晴らしい。図書館の活用に向けても地道な活動を続けて、生徒の情操指導を進めて頂きたい。
	文化行事の充実	・生徒からの意見を活かした文化鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。		A	文化鑑賞会に向けて、生徒主体で内容や会場、注意点などを話し合い、安全に取り組むことが出来た。			
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率90%以上)		B	クリーンキャンペーンは少人数にして実施した。点検率は90%。保護者アンケート「学校の環境美化、清掃が十分に出来ている」のGPAは3.4で昨年度より上昇した。			
	奉仕精神と勤労観の育成	・二階堂サポーターズクラブの活動を通して、ボランティア活動に積極的に参加する姿勢を育て、社会に役立つとはどういうことかを学ぶ。生徒会はその活動を推進するために協力する体制をつくる。 ・年間を通して各クラス1回の通学路清掃を実施する。		B C	コロナ禍で行動が制限される中、生徒会が出来ることに取り組んだ。 通学路清掃は感染予防のためほとんど行えなかった。			
健康管理	生徒の体力向上と健康維持	・新体力テストの校内平均で、3種目以上は奈良県平均まで引き上げる。 ・心身ともに自己管理を促し、保健室の利用回数を1000人以下にする。 ・感染症予防として、消毒液・手洗い用洗剤の補充を確実に実施する。		B	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、運動活動に制限がかかり、年間通して体力向上には厳しい状況であった。また、感染拡大防止の観点より、保健室の利用を制限したことで、例年との比較にはならないものとする。感染症予防については、素早く対応することができた。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の対応に追われた。次年度以降も新しい生活様式に合わせた対応を検討していかなくてはならない。	コロナ禍であったが、感染防止に向けた環境整備に努めて頂いた成果が表れている。

※ 自己評価結果について …… A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナー出席率を80%以上とする。内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。	B	B	サクセスセミナーを年間10回放課後に実施、進学編311名・就職編200名が出席する。必要な情報を生徒に提供し、意識改革に取り組めた。一人あたり平均2.8回の出席となった、さらに意識向上を図りたい。	就職については新型コロナウイルスにより先が見えにくい状況にある。職員全体で進路意識の高揚を図る指導を、全教育活動の中で展開していきたい。	卒業後の進路への適応能力を高める指導は素晴らしく、さらに推進して頂きたい。また、進路未決定者に対する対策も講じて頂きたい。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対して、定期的にセミナーを実施し、該当生徒100%の参加を目標とする。	B		卒業後にスムーズな滑り出しができるように、「働くうえでの法律の話」「社会人講師によるビジネスセミナー」「大学の学び」等の講座を実施した。当該生徒の参加率は98%である。さらなる意識改革に迫りたい。		
地域との連携 ・ 連携者	学校関係者との連携	・PTA新聞を年2回発行する。総会、研修会、乗車マナー指導等のPTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者5%増)	B	B	学校行事が中止・縮小になったり、総会・研修会等も中止になることが多く、保護者の参加を促進することは全くなかった。	保護者への連絡や案内等について、ホームページ等を活用した更なる広報の充実に努める。	二階堂フェスタは素晴らしく、引き続き地域を巻き込み、連携した教育活動は評価できる。
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。(回収率90%以上)	B		回収率82.7%で昨年より上昇した。「学校から保護者への連絡文書はよく目を通している」の項目でも数値が上昇した。		
	開かれた学校づくり	・体育大会・二階堂フェスタ等の学校行事に保護者の参加を促進する。(参加者5%増) ・学校ホームページの充実。	A		体育大会が中止になり、二階堂フェスタも縮小した形での実施となり、保護者の参加はご遠慮いただいた。		
防災	安全教育・防災体制の充実	・年2回安全教育を実施し、避難訓練を行い防災教育の充実をはかる。また、定期的に安全点検を行う。	B		密をさけるために避難場所は学年ごとに分け、避難経路の確認等を行うことが出来た。また、安全点検も確実に行った。	引き続き実施機会を確保する。	生徒自身の防災意識を高めて頂きたい。
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・インクルーシブ教育の推進を図るため、高等養護学校分教室と連携し、人権講演会や人権HRを充実させる。	A	B	1年生に分教室について理解を深めてもらうため、高等養護学校の先生に説明動画を作成してもらい、全クラスで視聴してもらった。分教室の卒業生の作文などを利用して、人権HRなども行った。また交流委員の活動や人権作文発表会を分教室と合同で行うことが出来た。	コロナ渦である現状を踏まえ、高等養護学校分教室との交流学习のあり方について、再検討する。ネットモラルについて意識付けするために、他分掌や学年と連携し、人権HRの効果的な実施が出来るように検討する。	ネットトラブルへの意識付の取組をしっかりと行って頂いているが、さらに継続した指導をお願いしたい。特別支援教育の重要性は高まっているが、着実に取り組んで頂いている。
		・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取り組みを行う。	B		全学年でネットモラルについての人権HRを行った。多くの生徒は、真剣に向き合っているが、SNSにおけるトラブルが未だに後を絶たないのが現状であり、対策が必要である。		
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速かつ組織的に対応する。また毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。	A		スクールカウンセラーを講師とした研修会を毎学期実施した。特別支援教育推進委員会は必要に応じて実施し、適切な支援ができた。		
国際教育理解	国際理解教育の深化	・奈良県外国人教育研究会と連携をとり、生徒の多文化共生社会に対する意識を高める取り組みを行う。	B		奈良県外国人生徒交流会などは多くが中止になり、発信できなかった。また2年生に多文化共生について人権HRを実施し、外国人の人権について考えた。	多文化共生についてより深く考察できる取り組みを行う。	大切な取組であり、内容の充実をお願いしたい。
研究	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携し、合同の校内研修会を実施する。	A	B	年度当初に合同研修を行い、また必要に応じて、分教室と要配慮生徒について情報交換を行った。交流委員会担当者を中心に分教室と連携した。	両校生徒の相互理解が深まる取組を増やす。授業改善につなげる研究授業を推進する。	様々な課題に対し、研修会を実施されていることは評価できる。
		・教科内および教科の枠を超えた授業公開・研究の実施(延べ参加人数昨年度比10%増)。	B		ICT教育については推進することができたが、本年度は、分散登校等、通常と異なる状況もあり、積極的な研究授業の推進は行うことができなかった。		
第一学年	基本的な生活習慣・規範意識の確立、進路を見据えた学習	・社会人基礎力の基盤として、身だしなみや挨拶、時間を守るなど、適切な言葉遣い等への意識を高めさせる。日常の声かけ・面談等を通して、生徒・保護者との信頼関係を構築する。	B	B	生徒の特性を理解し、学力や友人関係・家庭環境など個人を理解するのに時間がかかり、対応の遅れがあった。また、多くの生徒が高校の生活に慣れるのにも時間がかかり、計画していた内容のものが実施できなかった。学力補充ということで二学期の中間考査前から始めた各教科ごとの補習は意欲のある生徒が参加し、前向きな取組も出来た。	生徒一人一人とのコミュニケーションを深め、学力も含めた特性を理解し、進路を見据えた指導が出来るように取り組む。	生徒の現状を踏まえた先生方の努力を感じる。また、SCと連携した取組も進んでいる。生活習慣・学力向上・進路保障は一体であり、キャリアデザイン科の学びの意義を生徒たちに伝えられるよう様々な方法でのアプローチを継続・発展して頂きたい。
		・「産業社会と人間」の授業等を通じて、自己の進路について考える。日々の授業・BUTを大切に、ステップアップゼミ・進路補習等にも積極的に参加させる。	B				
第二学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・身だしなみや挨拶、適切な言葉遣いを自ら意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(令和元年度第1学年比10%減)	B	B	学年団で統一された強い信念を持って指導を重ねた結果、生徒達の授業や進路に関する取組等に改善が見られた。教師の指摘を待たずに自ら身だしなみを意識できる生徒も増えてきた。遅刻数は9%増となったが、欠席数は48%減と大きく改善した(昨年度2学期比)。	進路実現に向け、適切な情報を提供すると共に、自律する力を高め養えるよう指導を継続する。	単に労働時間の問題ではなく、先生方の働き甲斐を感じる改革をお願いしたい。
		・授業・BUTを大切に、進学・就職ガイダンスや進路補習等に積極的に参加させる。	B				
第三学年	将来のキャリアデザインを見据えた進路実現	・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(令和元年度第2学年比10%減)	B	B	進路実現に向け、ほとんどの生徒が前向きに積極的に取り組んだ。特に就職指導や進学講座は熱心に取り組んだ。社会人基礎力については、授業やセミナー等を通して多くの生徒がコミュニケーション力を身に付けた。進路決定後に欠席、遅刻数が増加したことが課題である。	様々な取り組みを通して身に付けた社会人基礎力を更にレベルアップさせていく必要があることを指導する。	単に労働時間の問題ではなく、先生方の働き甲斐を感じる改革をお願いしたい。
		・「自己PR力」や「協働する力」などの社会人基礎力を身に付けさせる。	B				
教職員の働き方	勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進	・月ごとの出勤時刻の個人統計を各職員が見直すと共に、超過勤務が目立つ職員、健康不安のある職員に対して管理職が面談の上、指導と相談を行う(月1回定期的に行う。)	A	A	各職員が出勤管理システムが導入されたことにより、出勤時刻のチェックが行いやすくなった。また、管理職も数値データを元に職員と面談することにより適正な勤務実態の実現に近づくことが出来た。	職場における働き方改革に対する意識がさらに高まるよう努める。	単に労働時間の問題ではなく、先生方の働き甲斐を感じる改革をお願いしたい。
		・職員個々が週1回の定刻退勤日を設定し、所定の様式で管理職に申告する。申告通りに退勤できない職員には、管理職が適宜指導と相談を行う。	B				
総合	教育活動全体の充実	保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.5以上。	B		数値目標には届かなかったが、二階堂高校の教育活動に一定の理解を得ていると感じる。	生徒の充実した学校生活が保護者に伝わるよう努める。	学校教育全体の魅力発信に努めて頂きたい。